



23日(土) 串高関東地区同窓会に行ってきました！

首都圏在住の同窓生が一堂に会する、年に一回のイベントです。会のはじめに、私から串高の近況報告。限られた時間で、伝えたいことをたくさん伝えました。

歓談が始まると、今年も先輩たちはお元気でした！ある先輩が、私にこんなことをおっしゃいました。「串高は小さい学校になったけど、生徒さんたちには大きな夢を持ってほしい。がんばっている様子がよくわかりました。これからの活躍を楽しみにしています」と。

今の生徒たちの様子をご理解いただき、とても嬉しかったです。他にも多くの方々から温かい言葉、「熱すぎる」激励を受けました。

また、この会には、3月に卒業したばかりの中袴田鈴君(日本体育大 串高アーチェリー部前主将)も駆けつけてくれました。高いレベルの中で、日々練習に励んでいるようです。串高は、創立98年目の歴史のある学校です。在校生諸君は、今はわからないでしょうが、将来、このようなネットワークが大事になってくるのです。



29日(金) 本日、避難訓練を実施しました。

地震により津波が発生したという想定での実施。本日の避難訓練を前に、私、関東同窓会の翌日24日(日)に福島県の浜通り(東海岸)にある双葉町に行ってきました。双葉町は、15年前の東日本大震災で地震、津波の被害を受けただけでなく、廃炉となった福島第一原発があるために、被災後11年以上もの間、居住が許されなかった場所でもあったのです。



町に入ると、今でも、至る所に「帰還困難区域」の看板と物々しいバリケード。その奥は、当時のまま時間が止まっているように見えました。草木に飲み込まれつつある民家や商店……。海岸近くに進んでいくと、更地が広がり、一方で、近年新たに立てられた工場や住宅等が点在し、道路もきれいに整備されていました。しかしながら、生活の

営みはさほど感じられませんでした。まだまだ復興は「道半ば」といったところなのでしょう。

その後、原子力災害伝承館で、語り部の方のお話を聞き、心が沈みました。また、児童・職員全員の命が助かったという請戸小学校は「震災遺構」として、当時の惨状が保存されており、自然に対して人間は無力であると実感しました。「自分は普通の日常を送っている」というありがたみを感じるとともに、災害に対する日頃の備えを見直す。今日は、そのような意識を持つことのできる避難訓練になったでしょうか。

インスタ、FBもご覧ください。串木野高校頑張っています(文責 立森)